

## 第 4 回遺伝子組換え農作物等の研究開発の進め方に関する検討会 (議事概要)

1 日 時：平成 19 年 6 月 14 日 (木) 10:00~12:15

2 場 所：農林水産技術会議委員室

3 出席者：別紙参照

4 議事概要：

日本植物生理学会及び農林水産政策研究所からのヒアリングが行われました。また、事務局から配布資料について説明が行われました。検討会での主な発言は以下のとおりでした。

### (1) 大学等における遺伝子組換え研究

- ・ 遺伝子組換え作物を作ることに、大学では農家に栽培してもらえるものまで作ることは容易ではない。
- ・ バイオテクノロジーに関連した種々の学会の中でも、遺伝子組換え技術に対するスタンスは研究者によって異なるが、遺伝子組換え技術は育種のツールの一つであるといえる。
- ・ 遺伝子組換え農産物は安全性をきちんとチェックした上で、リスク管理されたものであることが必要であるが、自治体によって栽培規制が異なると、研究に支障を来す。国として統一されたルールが必要。

### (2) 遺伝子組換え農作物をめぐる世界情勢

- ・ 海外で除草剤耐性遺伝子組換え作物の栽培面積が増加しているのは、省力化の効果が大きいことによる。農外収入の増加や家族と過ごす時間が増えるといったメリットがあり、これは機械化のメリットと同じである。
- ・ EUの共存ルール（経済的な観点から、遺伝子組換え作物と他の作物との生産流通上の仕分けに関する基準を定めたもの）のようなものは、自治体の栽培規制に対するブレークスルーになるのではないか。
- ・ 米国の最近の動向として、遺伝子組換え作物の作付けが周辺環境に及ぼす影響を指摘した判例が、いくつか出始めている点に留意する必要がある。

### (3) 国産バイオ燃料利用に向けた資源作物開発

- ・ バイオ燃料利用はコストをどう抑えるかが問題であり、投入エネルギーとの収支を考える必要。
- ・ 地域の資源作物に有望なものもあり、国の独法研究機関は実証試験も含めて都道府県との連携を密にする必要。また、農地の有効活用法についても考える必要。
- ・ 日本は得意分野であるエネルギー変換技術をしっかりやって、地球全体への貢献を目指すべきではないか。
- ・ 過去のバイオマス研究の知見蓄積も参考にしながら進めるべき。

#### (4) 研究戦略の視点

- いずれはリスク管理を十分した上で遺伝子組換え技術を当然の手法として使っていく判断をすべき時がくる。その時を見据えて中長期的スパンで戦略を考えていく必要。
- 遺伝子組換え研究は、行政と研究が一体となって国家戦略として打ち出すことが大事。日本だけ研究に取り組みないで、農産物やエネルギーを輸入のみに依存することは国益に反する。
- 日本はアジアのリーダーになるべき。日本で開発した技術は、グローバルに役立つ可能性がある。日本の消費者が満足することだけでなく、視野を広げて考える必要がある。
- 消費者が納得するものを作るべき。ハードルが高くても遺伝子組換え技術だから出来るものにチャレンジしなければならない。
- 非食用向けを重点化することによって、食用向けの研究が一層遅れる懸念があるのではないか。
- 医学と結びついた遺伝子組換え研究開発をすべき。その際は、早い段階から医学関係者や厚生労働省と連携する必要。
- 医薬品利用は、フードチェーンへの混入が考えられるので、慎重に扱うべき。

#### (5) 国民理解

- 食品の遺伝子組換え不使用の表示は、消費者の商品選択のために必要不可欠であるとの考え方が一方、遺伝子組換え食品は危ないという意識を植え付ける結果も伴っているのではないか。
- 世間は厳格な表示制度を求めている一方で、タバコの表示のように、遺伝子組換え不使用の表示についても遺伝子組換え食品が危険でないことを丁寧に説明するといった情報提供が必要ではないか。
- 教育が重要な役割。海外には、ゲノム、バイオテクノロジー等を一般教養科目として学校で教えている国もある。
- もともと遺伝子組換え技術は安全な技術であるが、食用では安心のために可食部に組換え遺伝子を発現させない技術があれば、遺伝子組換えに対する国民への理解が深まるのではないか。

## (別紙) 委員の構成

(五十音順、敬称略)

有田 芳子 主婦連合会環境部長

石井 茂孝 キッコーマン株式会社顧問  
(財)野田産業科学研究所副理事長兼専務理事

内宮 博文 東京大学分子細胞生物学研究所教授  
(財)岩手生物工学研究センター所長

貝沼 圭二 農林水産技術会議委員  
元 国際農業研究協議グループ(CGIAR)科学理事会理事

小池 一平 全国農業協同組合連合会営農総合対策部長

篠崎 一雄 (独)理化学研究所植物科学研究センター長

武田 和義 岡山大学資源生物科学研究所所長  
日本学術会議会員

田畑 哲之 (財)かずさDNA研究所副所長

廣塚 元彦 不二製油株式会社研究開発本部フードサイエンス研究所所長

三石 誠司 宮城大学食産業学部教授

山本 和子 フリージャーナリスト  
(有)農業マーケティング研究所所長